

天^{てん}水^{すい}勢^{せい}力^{りき}寶^{ほう}傳^{でん}

谷我作

國郷画



編

へ13
3937



門へ13
3937

安政四年己丁新春開板

鈴亭谷我補録

立川國郷画圖

後編

天寶水滸勢力傳

此書賈人急促發兌故寫刀謬誤未暇校訂
直以授焉恨蠅頭文字不易改刻耳

本編作者 谷峨誌

天寶水滸勢力傳全卷之下

江戸 鈴亭谷我補録

目錄

- 第八回 造酒勇と揮て繁茂門を援ふ事
- 第九回 岡次郎勢力の危急を告る事
- 第十回 逆川大園陣の事
- 第十一回 勢力水滸兄弟と義と結ぶ事
- 第十二回 勢力大猪を暴ふる事
- 第十三回 勢力勇氣腹神を返拂ふ事
- 第十四回 勢力自殺して神と崇らる事
- 以上畢

第八回

造酒勇と揮て繁茂們を援了事

余る不ど繁茂們と助五郎と退ふりつゝ天のりつゝ馬を
まばりつゝ親と見うゝるひねかくてハ本家へ逃げらるゝも
本家へふみこめバ家うち者どもおどろきおそきて皆ちりぐり逃
らせ空家ふひつゝたかかと隈あくるひめどもさうふ然ふ
見えざるバ戸隙をあちき思ひのまふわきまちして繁茂ハ
る月胞うも倉廩をひくきてさうさう令根を教をちり
さんとさむむと勢力あちきめて余を盗賊のまふさうさう
のまふさう助五郎のまふわきまちるも政吉の許へ逃げ
しりさむわきま乗如がふひつゝふ子づら多くつゝ親分
かくのどろと受バふとけとさう多人教めたるお後とさうさ
るバ親分ハさうさうと等とさういひ教地ふわけて進退つひふ如き

むハ大ひあるやうとさう人助五郎へ逃しつゝもかくすやふ
おひさうつゝは是とめて愉快とこのまふわきまちるやと
いさめふ繁茂けふりと思ひさうさうこの家とさうさう
退くわきま親分の喜猛流とさうさうわきまわきまわきま
わきまわきまわきまわきまわきまわきまわきまわきま
又わきまわきま一隊の人数真実ふさうさう一隊の隊の政吉あり
版屋方の子ふんどりと數十人わきまわきまわきまわきま
おそさうさうと逃まふさうさうふさうさうわきまわきま
うさうさう繁茂ふさまの六個もさうさうさうさうさう
今さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
お後ふひつゝ大敵と奮激突戦火をちりて防ぐりつゝ飛騨の勢
ひ繁茂勢力盛しつゝもその身後をさうさうさうさうさう



あつて殿様の時來の病と治さんと、男入おろし政者們が捕をうて
うろろりお將不でてち―武士ひとりこれへ富五郎あつたわきま
造酒といふのぞと大音声お答のりつ。両もおむかうちあつて
わたりまうせお答をいふ勢ひさうぐ秋風の木の葉とちまてくるり。
つづつ二人の款あまもふ素さうこそ政者もお人門が受とりあひ
年い遊人と同士整むとを制しむむとを得む俺ひとり武士と残
かろとと怪へけ入りるもお本の間ぐらお逃さりけりかきまけお
繁茂們の令といひ勢ひつきて六人おおより競へ農夫をうお
つるば農夫をうも政者們が降易むるおむさかそきて推ひりるも
場へつぎまうちりぐおあり―六繁茂們六人へひ―造酒かうむひ
再けのうとつぎと送るうお流るあうお造酒の勢いかうむひ俺の大衆
かうねくも思ふに女繁茂繁茂まで潮来お二日あつけ―う廉清へ降るは

和きくへてや色盆をあるてあつてさうへていひかうはし。造川の秋
うことつひてあつて思ひあつて後かおまき―うのんぞや和きくお
あつて―人々子の残りの残すこのまへあつて和きく思ひあつて思ひあつて
妙とへめくえおまきあつてと流るお流る―うもさうて桃子もあつて一
―うもさうて目と真向中―うと造川あつて競うん解とさね―は初更さ
家あつておとあつておとあつて二人あつて―のいとお寂莫さうわつて
あつておとあつてと和きくこの安否とさうおとあつてさうおとあつて
あつておとあつてと和きく―うとさうと和きく―うとさうと和きく
ね―お再けの恩といひう報―あつてさうとさうとさうとさうとさうと
まづ引おげんと造酒と伴ひ六個とも造川さうて引おげ―うの
お明りおとあつてと和きく―うとさうと和きく―うとさうと和きく

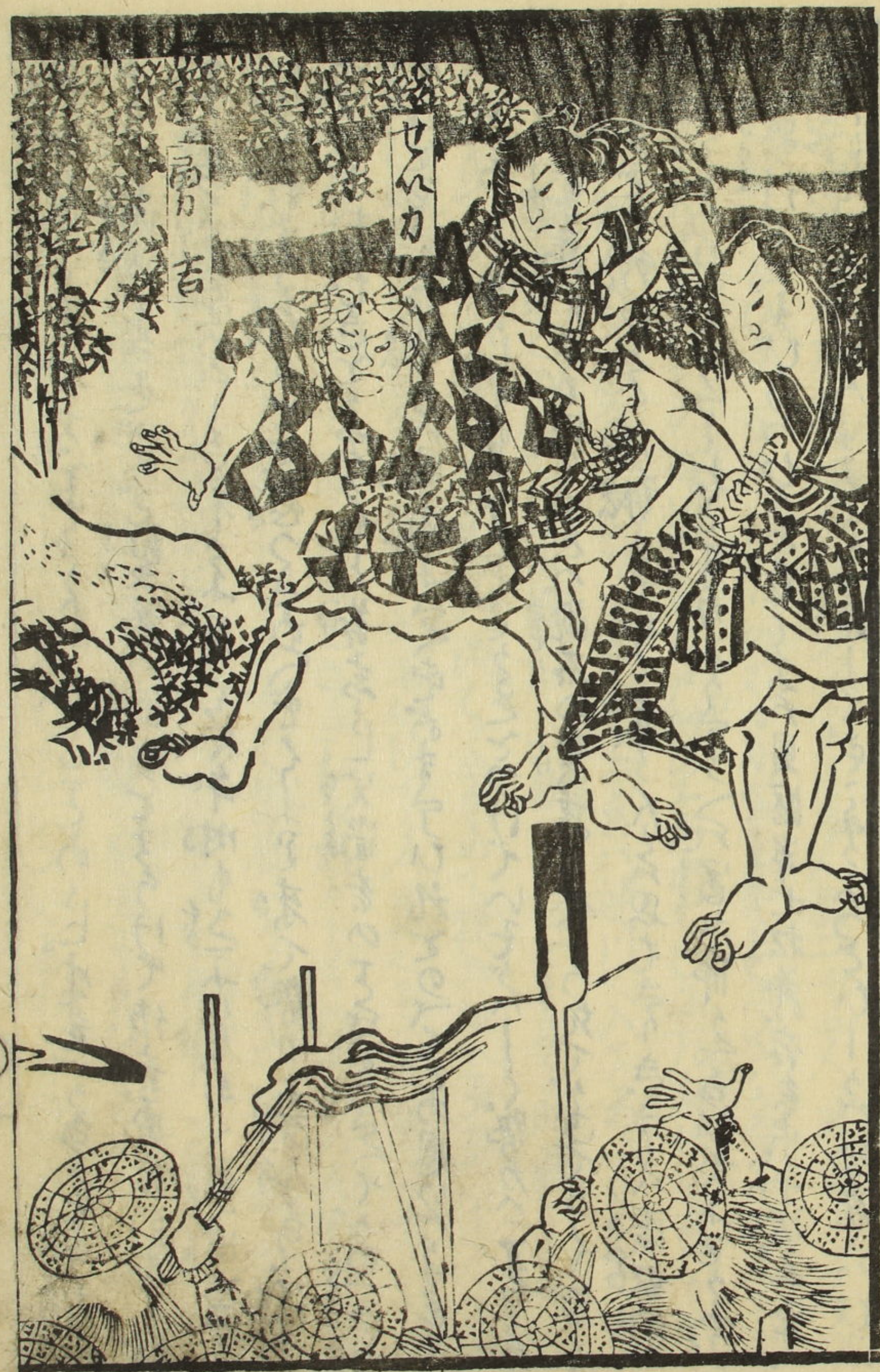
第九回 出次席勢力の危急と告る事

[illegible]

べー。園夜といふもひとめあうり。おれはまて六せん年と。なほそつまでお
 宝のてゝきく、準備とさる中、不桐清次といふりのわう、追でる時、其の
 万づらうこそ、彼苗者より金子と借り方と質を取けと今貰へるて
 うそと。金子ととのつかいこおりむき元利の金とよあしうとみぞ
 わろト苗者土蔵よりかど取りてうと。昨日迄あるくの發効あり
 と。宝事の噂をゆくと、同へバ渡次ハ自慙氣にその發効をひきつた。
 今宵かうかくのとわり、政右衛門ととんとてうひて、夢もおようとき
 さん。服屋方の名うての子ぶん荒町勘五郎、黒澤松井席利七又薩
 大八們のまても共八十餘人、まんべの返答ふち、行くことひら
 笹川の本像にもとんどんふてきて、ぬすべー。その時に血ぬり、刀を
 又もぬすふと、いひまて、ゆくろ新築より見から、苗次席へ、その
 ぐらうくろ、や出せくぐると、た多勢めて、笹川へかゝり、きと、うーこの

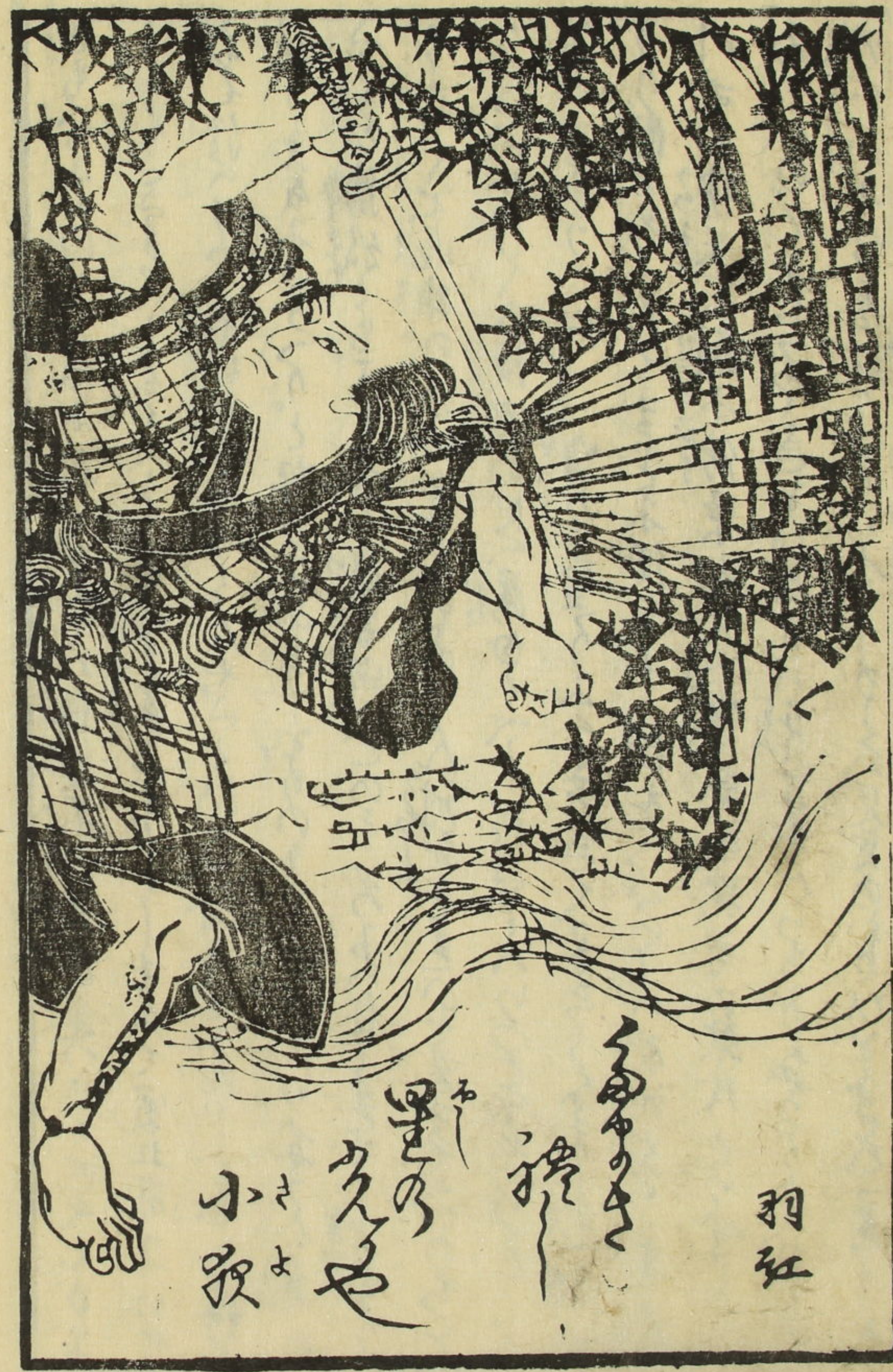
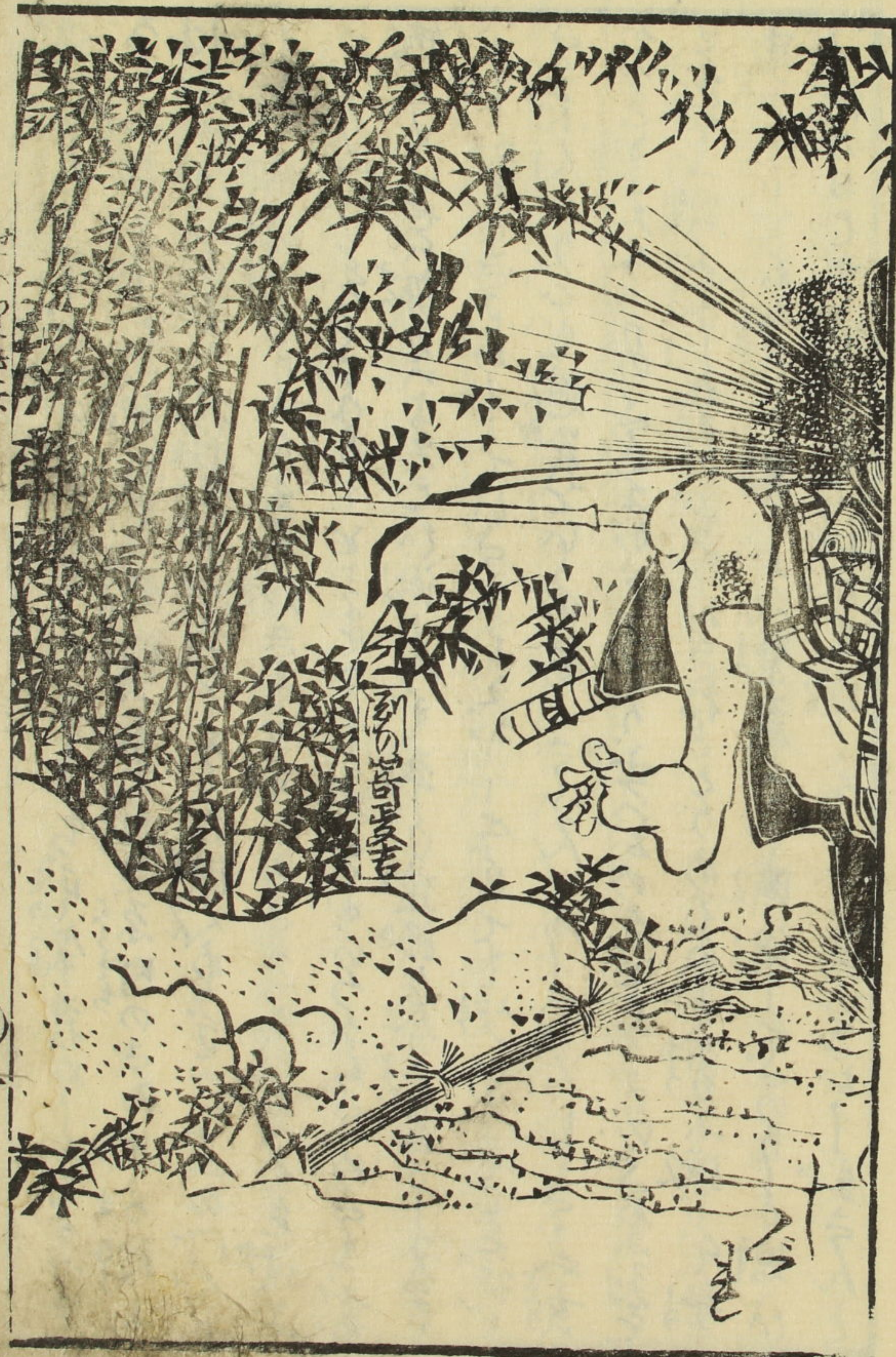
安危をわかれし。り。肉影。てあつまるべ。こゝ思人勢かぬー
 無常。朝夷の勇。わたりともい。く。今令。う。んとあつ。つ。このま。た。の
 て。へ。恩。とあ。ぬ。りの。と。や。い。そ。ま。ん。い。ふ。ま。ん。と。父。ふ。と。く。甲。も。兵。隊。で。
 然。之。汝。今。う。り。と。直。ち。て。ふ。り。と。か。り。む。き。勢。か。ぬ。ふ。この。う。り。と。ま。ん。と。
 告。て。さ。い。の。争。う。へ。り。や。今。有。の。我。ひ。ふ。情。あ。ん。と。も。か。ま。ま。の。大。強。勢。か。ぬ。
 あ。ま。バ。公。侯。の。制。交。う。て。緝。捕。使。ぐ。む。う。ハ。必。定。せ。り。を。中。の。地。を。通。て。
 あ。ん。身。と。表。の。ひ。あ。べ。ー。さ。り。あ。る。ふ。わ。ま。ま。さ。う。の。附。ふ。先。だ。り。の。ハ。其。令。人。
 是。ハ。世。お。ふ。り。ど。も。日。が。寸。志。お。ゆ。と。こ。の。一。色。と。勢。か。ぬ。う。り。と。て。汝。を。
 くと。ま。下。連。係。ハ。と。も。か。く。も。喧。嘩。の。そ。で。へ。あ。る。と。ま。ま。せ。と。い。ひ。つ。け。
 ら。ま。と。苗。次。所。ハ。大。び。ふ。う。え。と。ひ。う。り。あ。る。件。の。令。子。と。懐。中。に。て。筆。用。に。
 て。そ。い。も。た。ら。う。さ。そ。も。繁。茂。勢。か。ぬ。ハ。造。河。の。武。勇。か。虎。口。に。と。の。ま。て。う。ぞ。
 我。不。惜。う。る。ま。喜。び。い。そ。ん。で。ま。り。あ。る。と。も。世。に。く。う。り。思。つ。酒。う。ち。の。う。て。疲。

常。と。や。ま。り。ま。も。明。く。あ。い。る。も。わ。り。と。ま。ま。く。懸。懸。あ。る。う。り。と。ま。ま。其。所。に。お。い。ん。
 せ。せ。助。其。帝。の。不。意。と。う。ち。政。治。と。も。さ。い。ひ。と。造。河。の。ま。ま。け。お。あ。ひ。と。う。い。て。
 祈。方。の。勇。威。ハ。示。し。ま。う。と。も。渠。奴。們。う。り。と。ま。む。ひ。ん。お。思。ひ。て。彼。れ。と。せ。ざ。
 ら。ん。や。さ。ま。も。祈。方。の。疲。勞。と。見。て。人。で。翌。日。お。り。と。ま。ま。の。こ。ち。へ。う。せ。来。ん。も。
 とう。り。が。う。と。ち。ひ。ー。う。ぶ。あ。る。う。り。と。ま。ま。さ。う。と。ま。ま。未。だ。不。起。で。防。禦。う。り。
 い。を。あ。さ。ま。と。繁。茂。們。お。思。う。う。り。と。告。ま。し。繁。茂。わ。さ。う。う。ひ。服。役。の。う。り。
 む。ー。ど。も。ハ。世。夜。の。て。あ。る。小。腰。を。け。ー。う。り。と。ま。ま。あ。る。う。り。と。ま。ま。さ。や。と。い。ひ。
 を。勢。か。ぬ。う。り。と。ま。め。勇。ふ。る。う。り。ハ。匹。夫。之。弱。ー。と。い。と。も。渠。奴。們。お。ら。又。是。
 渠。奴。們。の。荒。神。さ。ぬ。わ。り。悔。り。て。准。備。と。せ。ま。し。後。悔。恥。と。造。河。と。あ。る。
 べ。ー。さ。あ。わ。る。と。ま。め。と。造。河。お。同。く。造。河。ハ。然。と。う。う。う。り。と。ま。ま。と。見。て。
 悔。う。べ。う。う。と。ま。め。況。て。容。易。さ。故。と。う。ね。バ。要。ん。ふ。と。ま。ま。う。り。と。ま。ま。も。防。御。
 る。と。い。て。勿。論。の。と。と。と。可。い。繁。茂。家。其。所。も。う。り。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。

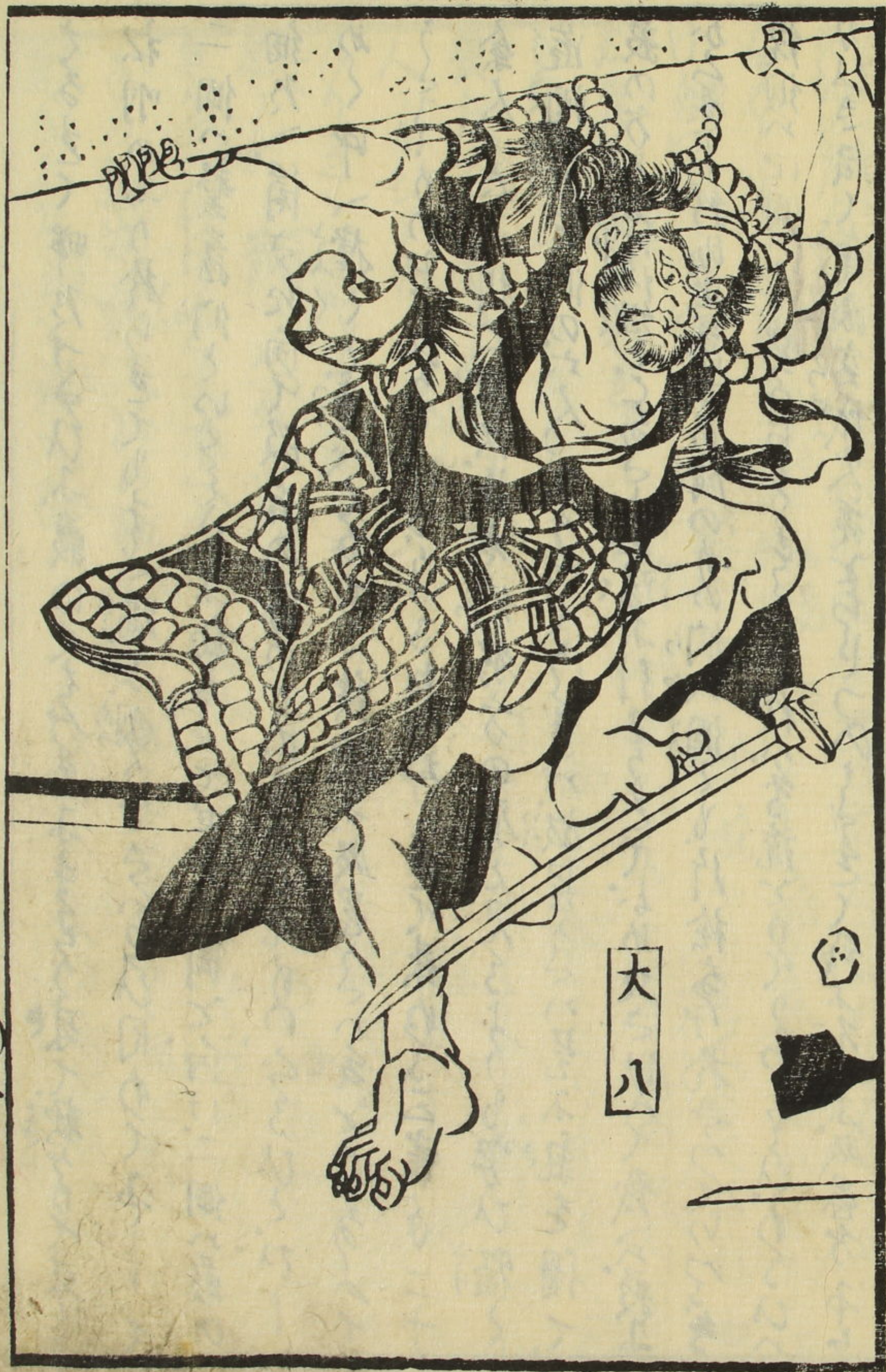


[illegible]

収めて、昨夜の連夜も遠隔よりとて、いまとも人数二十五人。服屋でふくむ
 て、人数にひきあつた。さうして、いふところへ、いふところへ、いふところへ、
 あひまわつて、幸ひこの道川と麻の戸村のそのあたりをひいた。右の山は、
 笹藪の細なりが、あるところと、さうして、さうして、さうして、さうして、
 躬方の要害、この藪うげ、小櫃伏し、秋この町とよき、時義と小櫃、
 竿撿りて、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 るまゝ進退、同中とある。さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 ういふ者、ぐと、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 繁茂、門が、服屋へかゝる。さうして、さうして、さうして、さうして、
 あり、いふところへ、いふところへ、いふところへ、いふところへ、
 こゝへ、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 女、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、

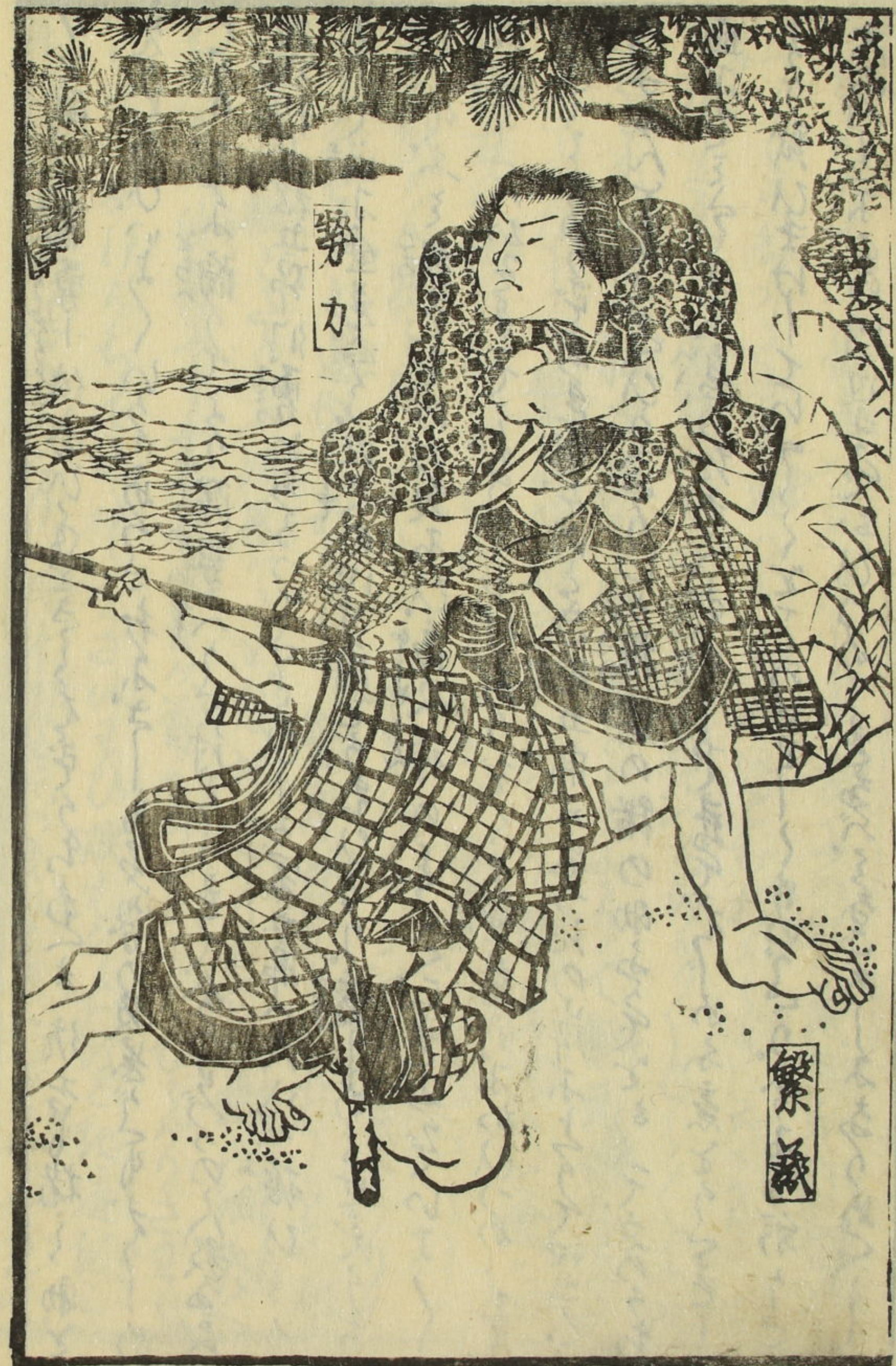


羽紅
 羽の奇雲
 小夜



張勢ありて二番おへさきぎくもあふ勢勢力們死力を
つうくちうくちうと違つく一いついともおろしりより
決死うきまて張勢へきまきさ死つちうくちうくちう
さききも張を清次張く助いふきききききききききき
かきききききき張勢へおきききききききききき
一張を張く助とちあふいさで勝願とさききききき
竹をひらん張く助いふきききききききききき
のききききききと違ゆくちきききききききききき
張組の二個とさきききききききききききききき
うきききききき張勢へきききききききききき
張の仲へあけりちておききききききききききき
うききききききききききききききききききき
うききききききききききききききききききき

かと得つて奮勇十倍あひひきききききききききき
思ひきききききききききききききききききき
えききききききききききききききききききき
大八利七松五席門勇とさきききききききききき
うききききききききききききききききききき
作しきききききききききききききききききき
張勢へききききききききききききききききき
うききききききききききききききききききき
のききききききききききききききききききき
血ふきききききききききききききききききき
より張ひまけきききききききききききききき
大八利七松五席門勇とさきききききききききき



親おんをゆくみふうつてびとまづこつとありなれぬといふおろろ
 邪衣こころの子さん們がさでふうやとあひまぐつ通あひくあさう一乃へ逃はなまざる
 鬘はな花們うちうまふまふといひてまじけく岸きおつるぎしハ染えぞふふふ
 いとるあくがうてへひとるもまじくしと助五席へあさう一に丑人の
 ふさんとむげすしひとくどと勝かつをうつる鬘花們ふきつくろま
 へねうてきの款きぞと鬘花せひ勢せ力りきよりう一ひ勇人ゆうじんでうちあふあだ、遠とほをまて
 束たばつる利七りしち松五席しょうごせき勢せもとろてう一親おんあさうあどふあての
 流ながう改か者しや們的うみとむくちんこつへまてふうちまうへ親おんの
 るむひとまじけくちんちんとひくきあへといひつ二個ふたへ先さきふまさんで
 免めんりのつるひもてうけハ鬘花はな勢せ力りき流なが者しや勇ゆう者しやいづちつこつひ
 一が利り七しちへされハ鬘花はなと助五席しょうごせきの和わとわうくふと死し面めん者しやふあてけら
 一ううみとこつぞうへさんとおれハ勇ゆう者しやとこつり合あ一上かみ一いとときりむ

[illegible]

ちう統うとまんうと思へを親分をみ抱して。あわしめあら
ところにあうむと統をうたりふたおの槽をうけ声うくか
きまば。統ふくぐるをやふの。策を執るごとく。今へもや。世子の
海つづるころ。助五席へおのづう。思ふきく。て記わがまを。
是つとまう。且おどろた。且よろこぶと大う。あうむ。まうく
そひくを。統ふ。かぶら。をぬひて。血のあがき。とまのあうり
スー。いふ。ふ。や。ぬ。ひ。とく。初もあき。ハ。や。き。く。ま。う。
めらふぞ。助五席も。養の。とく。とま。も。ち。統。う。く。ま。う。と。思
ひ。の。と。あ。い。呼。吸。さ。く。と。ま。の。あ。の。と。の。あ。う。ね。ど。夜。ふ。り。
さう。や。ま。も。わ。く。む。と。あ。ま。り。の。と。ま。思。ひ。う。て。机。を。ぬ。げ
バ。や。り。統。ふ。と。ろ。び。一。処。あ。う。と。い。う。と。首。と。う。く。む。け。侍。の
侍。を。と。た。ひ。く。き。て。ん。ま。ば。ち。う。統。ふ。ま。う。う。滝。石。初。明。王。の

まの。あ。う。で。る。う。破。き。と。う。その。ま。う。う。い。さ。う。集。う。と。の。明
王。の。推。後。と。う。む。り。う。と。け。あ。く。も。と。の。せ。ぬ。ひ。て。と。が。身
が。り。ふ。ま。あ。ひ。ん。お。を。ま。多。や。有。う。と。や。と。ま。う。く。伝。ん
狸。ふ。藏。く。う。ん。派。と。ど。あ。う。け。う。子。が。ん。們。も。と。ま。壺。験。の。
いち。ど。う。た。を。感。う。ん。つ。や。ぐ。て。お。を。統。ふ。あ。て。破。屋。へ。い。ど
ま。り

第十一回 勢カ水滸兄弟と義と義と義と事

さう。と。ど。小。繫。落。ハ。助。五。席。の。お。と。ね。う。ひ。て。お。う。る。荷。の。ま。う。
つ。わ。り。が。勢。と。ま。こ。め。て。獲。あ。ま。ば。そ。ま。う。わ。う。ね。あ。う。う。
あ。け。ま。ど。今。月。の。う。う。ひ。是。ま。で。な。り。ひ。と。ま。う。引。わ。げ。休。息。て
明日。ま。う。商。議。と。あ。ま。と。と。勢。カ。依。を。勇。を。松。落。者。を。来。年。次
め。あ。と。も。う。あ。う。た。わ。げ。つ。と。が。家。へ。う。て。ん。ま。ば。の。く。傷。を

願てひとりも無難あらぬあり。さきども歎ぐこのありづゝ
 うゝぬ小勢とてしかるゝの。務とてゝゝのくが氣勇力悍
 あまばなり。さきをわくなくゝゝゝ。遠逝。第七彩助丸彦。
 云平その宅十二人。いおゝむべくわきまむべ。龍津遠逝。
 きゝゝ。わゝゝ勇士とてしあひぬ。とてゝゝゝ。あつたて惜まぬ
 りのゝあゝりけり。さきをば入助五郎。ゝゝゝ。金とひろひつゝ。あ
 ふゝゝゝ。あひといゝゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。
 利七。清次。松五郎。宗徒のりのをゝゝ。めとゝゝ。六十餘人。ゝゝゝ。
 あひゝゝ。大ひゝゝ。とゝゝ。その夜。ゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。
 あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。
 大喧嘩。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。
 ぐゝ。血いあゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。あゝゝ。

元もよりむらむらありあきばを逃し喋りくた。風はつちまきく
 るりて、関八州の巡見侵むのりのおもくあさぐて、進川と版屋へ追
 捕ふむりふり。繁勢們きつてさうてさうバひとまづこの地をさけて
 身を去のむんとおひひくふあさぐてさうてあさぐてさうてあさぐ
 松蔭平次、権次、吉本、赤井の五個のふりでの苦痛さうさうし
 つひふむらあくなりふけり。うきをば繁勢勢力に個のむく一を
 金義せんと。の巡見侵む土兵おやうきまとあさぐてさうてあさぐ
 てさうてあさぐのま近とあさぐてさうてあさぐてさうてあさぐ
 つねをさぐてさうてさうて版屋の中むらさうてさうてあさぐ
 けり。このよう助立席もさうありて。子ざん們的にさうてさうて
 のうさくあさぐあり。そのあさぐてさうてさうてさうてさうて
 あさぐ陣代竹がさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

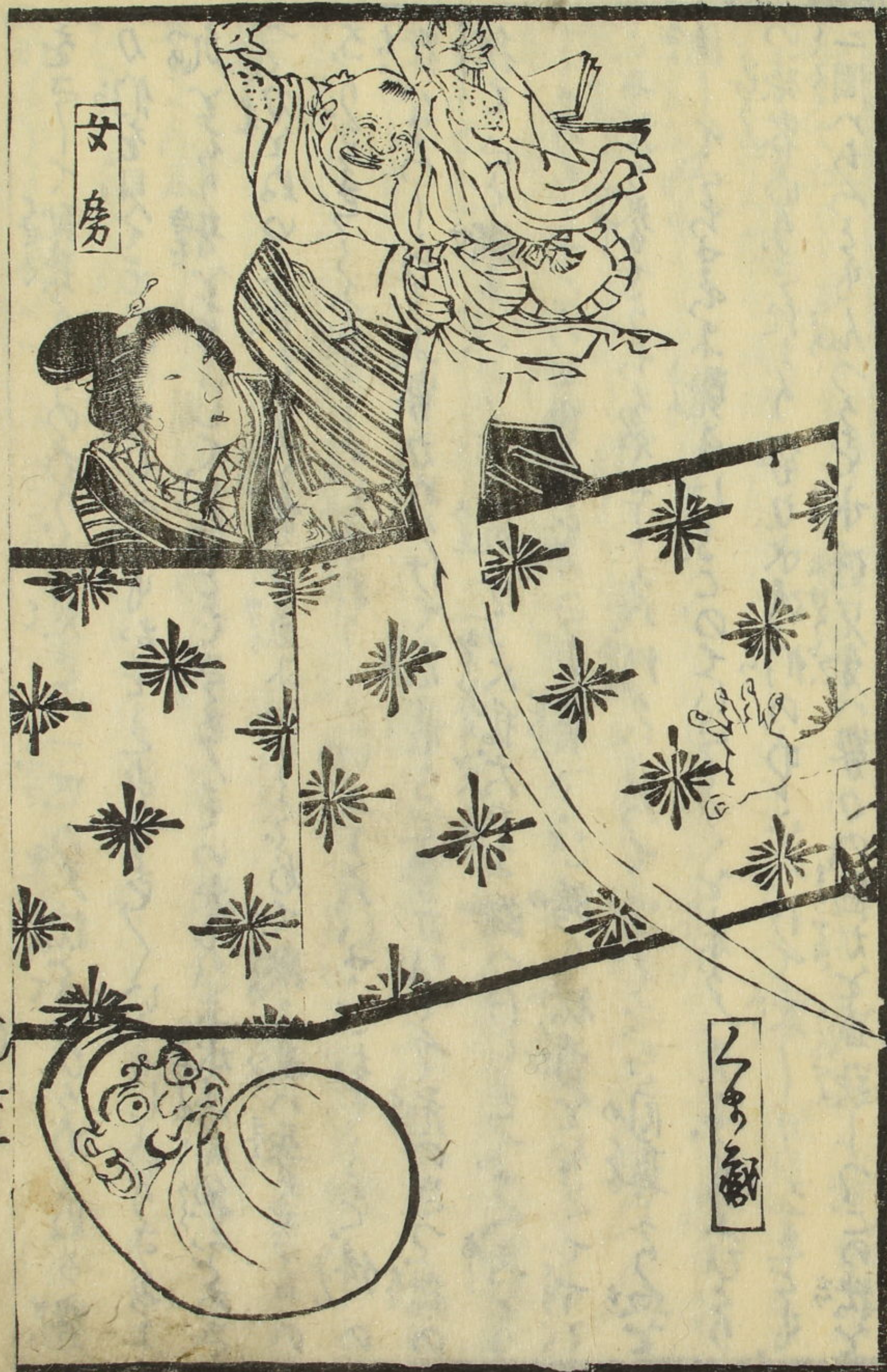
うゝ。俺^{おれ}らんべの罪を得て、必定^{ひつごち}いましめらるゝとも。又いふさう
 この場と述べる男あわづまどころをまきて、版匠へおもむけら
 おりてむきはいすゝめて、獄中^{ひこや}ふつあぐようあきども、實^{じつ}陣屋^{ぢんや}
 かゝるはきくが。の巡見使へ、版匠ごとく捕えをへんとて、
 ふを牢^{むろ}にこめて引^{ひき}ふけり。さうもどかぬ五席へうつるときの
 よういふと、留者^{とめ}よりおくりくる。令^{しやう}ふひとつとて肌^{かわ}みしのでし
 とくまで人ごりの罪とのぐまどと思ひくば、人めをわざ
 むくぬふとて、さうお發^{はな}とそりおくり、進川^{しやうせん}とぞるたまはまつ
 野の勝巻へおちゆたて、榮助^{えいすけ}、熊彦^{くまひこ}、脇助^{わきすけ}們が、許^{もと}ふあざうく志^しのど
 るどふ人のうらさしも七十五日、追捕のさても止^{とど}まりくば、松峯^{まつね}と見えお
 あぐう。常彦^{じやうげん}とていふのが、又水沼^{みづぬま}同抱^{どうぶ}とつづぬべとて、さうした
 夏^{なつ}とききて、秋^{あき}もむうとまがきく。牙^はハ藩^{はん}のひとり旅^{たび}ゆく香^{かう}けき

陸奥の谷戸古瀬と見ゆらりて、舟で常陸のゆとふりて、此ごろ
小豆とくめて、糠のつくまを休め、うべわさ日くさる村ふかりむき
て、水寄同抱え、面金まゝ、遠酒の書簡と見せ、くべ同抱とり、小
うちよりこひうひて、雷忍どきくち、くべ勢力なりて、おひせ、うかろ
大丈夫とあふしとむきふへられ、くさるひひり、師匠の遠書
わくむとも、あさぐひまんくんと、勿論あり、とて、歌うふらの
義とちうひぬ

第十五回

爰立席大猪を暴ふとる事

あゝ又磐石の進川とのぐき出てあるべのう。うふふと老のび志を
ら、初聲とらかふをとお助五席のそ版屋ある陣屋へたすめ
とくまゝそのるるゝを迹さうて款方にも祈うてふもくめ捕らま
しめぬあゝいまは己が父の食後さゝめやうなうゝうども



中りしうへ、洞交こそ前まぬ家とも、空宅も同様とさくこの舟を漕
 さるうけハ陣屋よりゝとまゝしてこの処へおひつめて路あきところと
 おとらん、計畧ふこそゆふあまも、又栄助ゆふ虜まゝへるへ、夜船
 参観うこと母を討ふせしものと、所て携右へ、栄助ゆふあづきはつ
 播磨市們を、亦座へらち入つ、蕉火うち消しぬを玉の園ふらうと
 こをりつ、ちうとも由勢せざりなり、さるるをど小勢力ハ助五席の宅へ
 うち入る人新さうふあうりしうへ、さうへハ本家あるべしと、又か
 らぬうこの家も人、氣あけまば、御もあく、弱むしともぞと、さう
 近うまば火を放ちて、焼ちうひ、熱傷とさまさんと、友家との火と
 うけうへ、忽地ぞ天ふのありて、漏くうういきりひあまどもを、近の
 りのともハ、勢力ちう来ぬと、夢ありて、一人も出わふりのも、さうと
 勢力ハ思ひのすう、助五席を、畜へる、令限衣振器材とさまのとり

あゝ、うき成なりとて、快はやとて、あゝとて、ひ人殺ひところしとす、とめ懸かく、お後おのちを、とて、まゝ
引ひき、と、版ばん沼ぬまの陣代ちんしろく、とて、まゝ、捕とらへ、まゝ、あり、とて、駈かけ
兵へい們ども、とて、いふ、あり、とて、まゝ、とて、ひ人殺ひところしあつ、まゝ、ね、ば、支し配はい下げを、新あらた
まゝ、也、机えん妨ぼう、とて、つゝ、勢せい力りき們どもを、一ひと足あしも、退おを、で、止とどけり

勢ト力カ自ミ教コ一ニ神カミ不レ崇ホトらレ事コト

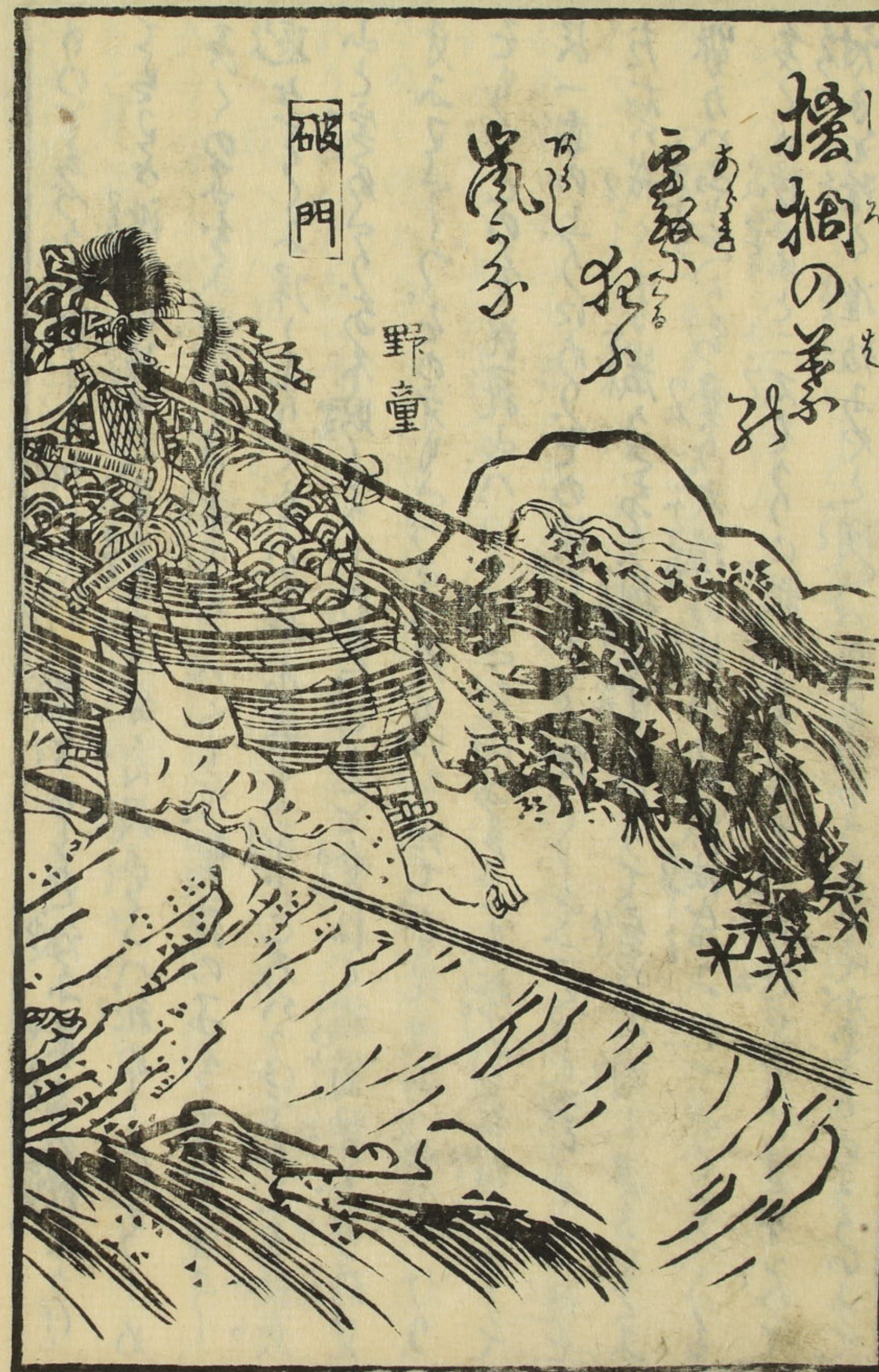
[illegible]

とわらうべうらむさうさるる陣屋と申すらんて。疑くもあはれなる事
ふでへ逆賊の名と云けん。然れども人を屠り火と殺すて大に
あはれ。罪ともあらう。さあはるる。六の細小からんて。家早となくも
わらうべうらむさうさるる。疑くもあはれなる事。疑くもあはれなる事。
如の首うちて。是をりて。是をりて。自教せん。和ぬ。
們小罪あけき。子ふん。引連。あさりね。とさう。業助。們うち。さ
さめ。悔め。むさう。死さ。時小死。さ。死さ。あ。あ。あ。あ。
わり。ひ。あ。ち。毫。き。さ。さ。共。さ。り。か。も。押。め。う。ひ。
より。解。けん。五。百。あ。さ。り。の。令。と。の。り。あ。く。それ。骨。代。み。ち。
わ。小。水。時。足。か。親。さん。と。め。さ。の。小。死。あ。ん。ち。ひ。ひ。さ。く。ハ。
め。是。孤。獨。の。窮。民。あり。わ。さ。さ。黄。泉。の。お。使。せん。思。ひ。ん。て。わ。り。
さ。る。小。好。力。さ。う。と。と。の。さ。さ。さ。う。あ。ん。と。さ。う。ん。の。業。助。們。家。院。の。

の。と。あ。う。う。論。て。和。ぬ。們。の。獨。身。あ。う。と。海。小。妻。子。の。教。と。う。け。
と。さ。う。さ。洗。け。の。隙。と。早。さ。う。さ。身。自。殺。さ。う。ハ。和。ぬ。們。さ。う。め。
あ。く。の。子。さ。小。罪。わ。さ。と。思。へ。こと。と。無。義。の。子。さ。も。共。小。連。さ。
遠。が。う。小。屏。さ。り。て。今。の。さ。ん。安。死。と。さ。う。ひ。さ。あ。う。令。毘。那。
ふ。と。さ。め。う。ら。あ。不。思。や。う。わ。さ。び。さ。と。食。ね。と。後。筒。炮。と。あ。う。さ。う。
さ。ふ。さ。う。う。その。身。も。さ。う。さ。う。た。と。い。さ。だ。て。令。毘。那。の。の。り。け。り。
そ。う。この。令。毘。那。の。の。り。と。小。さ。た。山。あ。さ。さ。も。柳。ハ。さ。る。泥。田。ふ。さ。
只。一。方。の。上。り。に。わ。り。その。路。を。さ。さ。狭。く。さ。二。人。と。あ。ら。う。と。得。む。
左。右。我。く。さ。る。歳。さ。さ。り。樹。木。は。さ。げ。り。て。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
勢。力。ハ。山。と。さ。う。さ。大。樟。の。枝。の。う。ち。油。帝。小。色。て。う。さ。さ。さ。さ。
さ。く。の。後。葉。と。二。さ。さ。う。の。結。と。り。お。せ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
耐。え。と。防。と。准。彼。め。と。同。ハ。勢。力。ハ。さ。う。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。

下

下



いふで付ふと防ぎ得人は此の山小退つめきて、第五席へ賊死せりと。
後日ふいそまんには備けをばかろふといふとてなきも、あづふ自叙
せんぬのそといふおろく、棟のさより、棟後を敵ありひきて、八州の巡見
後殺百人の夥兵をあらぐ、棟ととりまた責よりをりのく、やと
あゝ各見あひくつて、後炮とてきて、先隊ののたへお泰どふ
し、ふくまけるこの勢ひ小辟易く、殺百のとりひひとあづふ小棟
つどあづまける、そのひまふ勢力の、腹十文字あうた吹て、くづさく
後筒とるへ向け火蓋をきつて、くづさく小面相うち傷り、そのまゝ息の
終りけり、あづ見あひとて見て、あらまはせどと後つき切て、あるト
まろふ小依てんがり、あづまふも又勇まき、勢もあろ、巡見後ひ
後炮を防ぐ、あふ零の竹小燭をきりて、是を捕とく、くづつて、
あひくとか、よりくづこの形勢小果は果面相うち死首と獲

くままでのめくとも、要ふりきと巡見後のいそまよう、と修く吹て、
第五席とて、えとて、幸にろ勢力あめく、とらけ、聖人們のあゝ
ねぐひて、その神を乞ひうけろ、あづ見あひとる、あづ提ち、埋
葬し、大ひある墓碑を建て、義勇と譽あ、とて、諸人勢力の徳を
あて、香華の終ることあり、くづあろ、くづの頼とけり、
この塚小雨痕ひをあらう、ひ終栖を建懐と、歌げ、くづ力霊神
とて、崇めける、都、あろ、あろ、その勇、その義、いそまろ、えく、滅び
ざる、力の、碑、あつて、千載の後、まふ、持ち、ろ、ろ、さ、あ、助、五、席
いかくの、と、た、歌、まう、け、り、この幸、に、ろ、畜、材、と、惜、む、と、あ、く、人
小、極、そ、一切、徳、小、より、流、石、初、の、権、後、り、て、その、ろ、小、急、ふ、ろ、り
けり、是、より、勢、小、第五席、ひ、勢力、の、た、さ、け、小、より、と、真、見、と、夫、婦
小、あり、しく、バ、中、む、ろ、ろ、く、友、親、小、若、養、と、つ、く、と、あ、ど、い、く、く

和合録纂わがくあひくみなり。榮助えいすけ、能登ののり、稀助きすけ、們らも、是こゝより、んを堅固けんこす。正ただに、我われ民たみと、身みと、做なし、つ、勢せい力りきの後のちを、吊ひひ、り、め、で、こ、し、く。

○此書このしよや、由よし年とし流布りゅうふある、其そのの、水みづ渾みを、稀き録ろくし、志こころの、こゝろ、に、
柳やなぎ要ようん、わ、り、も、補おぎなつ、つ、つ、と、得えむ、原はらな、へ、何なん人びとの、も、辨わる、文ぶん、
ふ、を、ね、ど、も、見みえ、この、事こと、実じつと、穿鑿せんさくし、つ、つ、作者さくしやの、苦くるん、愛あいま、を、
然しかも、ど、も、敏みんふ、つ、つ、と、此この、み、多おほく、省しやうき、こ、り、丹に、心こころ、五ご、帝ていの、事こと、
蹟せきと、の、と、述のつ、と、有あり、と、ま、へ、之これ、指さし、め、り、あ、り、と、ま、へ、其そのの、
水みづ渾みと、の、大おほ同どう小せう異い、あ、き、ふ、あ、り、ね、ど、勉べん、修しゆ、懲ちやう、惡あくの、微ひ意い、あ、ま、を、
童どう、童どう、あ、ま、漢かんし、め、て、身みと、勇ゆう力りき、し、む、の、意い、ま、を、こ、ん、や、と、運うん、書しよと、
需ひつ、し、書しよ、詳しやう、ふ、ふ、し、急きふ、行かうと、通とほ、と、し、平へい、め。

天竺水渾勢力傳全卷之下 大尾

主新

大田

性子

せいしき

せいしき